創刊号　2023. 7. 1発行

かくれかこの覚書（おぼえがき）

**「終わるような　燃える空に
はじまりの夜が来る」**

【夕焼けは星空のはじまり】覚 和歌子詩集（ハルキ文庫）より

終わった、と思った瞬間、私たちが抱くのは、
達成感、後悔、やりきれなさ、喜び、怒り、
言いようのない寂しさ。うんと泣いて、
死んだふりしましょう。全部抱きしめてきっちり
味わえたら、それらはこれから出会う誰かへ
手渡すためのやさしさに変容します。
終わったからアウト、じゃない場面を私たちは
いくつもくぐりぬけてきてここにいる。
みんなと。ひとつの終わりは、
同時に次の始まりです。
空が教えてくれています。

「宙を見上げて ～星つむぎの村だより～」

【発刊によせて】　星つむぎの村 共同代表　跡部浩一　高橋真理子

「私たちの命をずっとずっとたどっていくと、地球が生まれたとき、太陽が生まれたとき、天の川銀河が生まれたとき‥それよりもはるか昔の138億年前、宇宙は何もないところから始まったと言われます。そう思うと、私たちはみんな同じ誕生日をもって同じ場所から生まれてきたと言えるのかもしれません。」

これは、星つむぎの村のプラネタリウムで、いつもみなさんにお伝えしていることです。私たちはみな同じ星のかけらでできた存在。だからこそ、病気や障害の有無や肌の色、文化など、多くの境界線を越えて「すべての人と一緒に星空を見たい」という願いを持ち、たくさんの活動を行っています。「病院がプラネタリム」をはじめとする移動プラネタリウム、地域の方々と一緒に星を見る会、大規模災害の被災地に星空を届ける復興応援、手づくワークショップやグッズ・クリエイトの制作、星の寺子屋やオンライン配信、そして、星つむぐ家と場づくり。そのすべての活動を、200名の仲間（村人）とともに取り組んでいます。

そんな、私たち「星つむぎの村」の「今」と「これから」をお伝えするために、この星つむぎの村だより「宙を見上げて」をお届けします。これまで、毎月メールでお送りしていたものを、年に2～4回程度、郵便でお送りします。回数は減りますが、お手元に置いていただき、ふとした時間にお手にとって星つむぎの村を感じていただければ幸いです。

7月7日（七夕）から 8月22日（旧暦七夕）

誰もが安心して満天の星に出会える場所を

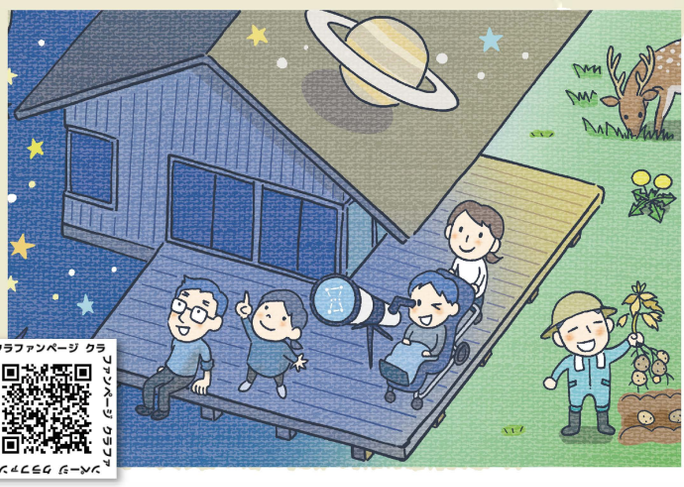
『星つむぐ家』をつくろう!! クラファン挑戦中です

山梨県北杜市にある星つむぎの村に、2023年10月1日竣工をめざして「星つむぐ家」を建設中です。この家を建てるに至った想いは、数々あるのですが、何よりも、「病院がプラネタリウム」を通して出会った方々の「本物の星空を見たい!」という願いが原動力になっています。

「一緒に星を見ようよ」と誘われたら、一歩が踏み出せる。
自然や人と触れ合えば、明日のエネルギーに変わる。
星との対話は、自分と今を見つめる時間。

星を介してともに幸せをつくろう。「星つむぐ家」は、幾千の願いをかなえる、みんなの夢です。

建設資金は、6年間積み立ててきた基金をベースにしていますが十分ではなく、クラウドファンディングによって、みなさまからご支援いただきたいと思っています。
ぜひご協力よろしくお願いいたします。



クラファンページ

星空情報

暑い季節の到来です。夏の星空の主役といえば「夏の大三角」。はくちょう座のデネブ 、こと座のベガ(織り姫)、わし座のアルタイル(彦星)、これら3つの明るい星を結んで 描く大きな三角形は、七夕を過ぎ、西の空へと少しずつ移動しながら、クリスマスのころまで見ることができます。
また、8月31日には今年最大の満月も。(K.K)

星の寺子屋合宿 やりました!!

5月13、14日にあおぞら共和国で星の寺子屋合宿がありました。コロナ禍、オンラインで顔を合わせてきた子どもたちが待ちに待った合宿。様々な楽器で音と遊んだり、手話、プラネタリウム、紙飛行機、バルーン作り、森のお散歩など、子どもたちは目をキラキラさせて楽しみました。手を伸ばせば触れる距離にお友達がいて、一緒に笑いあえる幸せに包まれた2日間でした。(K.K2)

最近の活動から

「病院がプラネタリウム研修会」をひらきました。23年度は、「出張プラネタリウム」が一気に増えています。また、この4年間発展してきた「フライングプラネタリウム」もニーズはありつづけ、今後もしっかり続けていく予定です。届ける場所は、全国各地、たくさんありますので、星つむぎの村として、それを実践できる担い手も育ってきています。

星のことはあまりわからないけれど、何かしたい、という思いで村人になる人も多く、お互い学び続けていくために「病院がプラネタリウム研修会」を、毎年開いています。今回は、その研修会の様子を、少しお伝えします。

研修会の大きな目的は、「共に生きる社会をめざす」ところにあります。今回は、「子どもたちが、一人ひとり自分らしく豊かに生きるために」をテーマに、盛りだくさんの話をみんなでシェアしました。

「子どもの権利条約と医療における子ども憲章」について大和淳さんから。続いて、黒井良子さんの医療保育士の経験から、「病気や障害の子どもたちとはじめましての際のアドバイス」。井関宏美さんから、娘のゆうなさんがICUにいたときの不安な気持ちと救われたアクションのこと。安藤晃子さんは、星になった佐知ちゃんから教わった大切なこと。藤田優子さんからは、重心児の一樹くんを、「人から愛されることを学びに」地域の学校へと思い続けてきたこと。大和紀子さんからは、星になったひなたちゃんとプラネタリウムをやるようになった思い。古川綾子さんからは、難病児の結莉奈ちゃんのやりたい!を支える姿。

参加した村人からは、「子どもであれ大人であれ、相手は計り知れない他者である、という感覚が必要ですよね。大人はつい、よかれと思って、子どものことを勝手に決めてしまうことが多いですが、子ども自身がどうしたいかをよく聞く、そして対話をするということがほんとうに大事なのだと感じます。」
「星つむぎの村の多様性、そして包容力を感じる時間でした」などの感想が集まりました。

それぞれが、自分を生き、他者とともに生き、少しでも幸せな社会に近づけますように。(M.T)

ダヴィンチの玉手箱

みんなみんな、毎日を生きています。生きているだけで奇跡です。喜んで、悲しんで、悩んで、楽しんで、懐かしんで、驚いて、笑って、泣いて、暮らしています。ひとりひとり違う色や形を持ってキラキラと輝いています。村の玉手箱には、さまざまな光で輝く星のかけら達(村人たち)が沢山詰まっています。そして、その扉を開け、読者の皆さんへつなげるのがこのコーナーです。どんな光が飛び出すのか、ぜひ楽しんでください。

「うちゅう」
画：木村　啓明

「めぐるあしおと」
くまがい　ほのか

あなたの足音　わたしの足音
靴が知っている物語
あなたはどんな道を歩いてきたの
どんな今とここまで来たの

わたしの靴音は願う
決して触れることのできない
遠い祈りの音たちと
いつか交わるその日まで

落ち葉を一枚拾ったら
それは春への伝言状

桜が咲いたら木の下へ
そっとほどいてあげるといい

季節をめぐった色たちが
時の語りを楽しむだろう

そっと窓を開けたら
お日様の中で緑が香った気がした

めぐり続けるいま
今日はどんな季節を歩こうか

一般社団法人 星つむぎの村
409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸 6587-2　Tel 0551-88-9027
e-mail info@hoshitsumugi.org　HP https://hoshitsumugi.org